

研究機関：広島大学

研究課題名	大腸腫瘍に対する内視鏡切除の治療成績に関する単施設後ろ向き研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
研究期間	2021年2月9日(倫理委員会承認後)～2034年12月31日
対象者	2002年11月から2030年12月の間に、広島大学病院内視鏡診療科において、大腸腫瘍に対し内視鏡切除を行った患者さん。
意義・目的	<p>大腸腫瘍の内視鏡切除法としては、ポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術 (endoscopic mucosal resection; EMR) が最も広く行われていますが、スネアで切除できない大きな病変や癌に対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術 (endoscopic submucosal dissection; ESD) が行われます。ESDの技術的難易度は他の切除法と比較して高いですが、内視鏡機器の改良や補助デバイスの開発、新たな手技の登場などにより、以前と比較して安全性が向上しています。一方で、大腸腺腫や早期癌の診断機会は増加している本邦において、より確実かつ効率的に治療を行うことは重要な課題であり、適切な治療法やデバイスの選択が必要です。</p> <p>本研究では、大腸腫瘍の特徴に応じた、安全・確実かつ効率的な内視鏡切除法やデバイスを明らかにします。また、この調査結果は、より確実、安全かつ効率的な内視鏡切除を可能にする意義を有します。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を用いて、年齢や性別、既往歴、病変の部位・肉眼型・大きさや、治療法、治療に使用した内視鏡機器やデバイス、病変の一括切除率や偶発症発生率、治療時間などを調査します。</p> <p>なお、個人を特定可能な情報は解析には使いません。</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科 教授 岡 志郎
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生じることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3</p> <p>T e l : 082-2551-5939</p> <p>広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 岡 志郎</p>